

# 道をや つてくる 異変が

結

結



成人向



紅魔館のレミリアに  
助力を求める

その場に居合わせた  
パチュリーが  
何かに気づいたようだった

カ  
ク

あったわ

ある日霊夢の賽銭箱に  
お布施が入らなくなり

読んで  
ちょうだい

ええ

読むわね

カ  
ク

「迷いの森の魔法使い」

むかしむかし、一人の魔法使いがいた。その魔法使いは自分の力が他人（ひと）のためになればと、人々のためにそれを大いに行使した。

人は魔法使いの事をあがめ多くの貢ぎ物を捧げた。

村は豊かになり

小さな小屋であった魔法使いの家が

大きな屋敷になるまでは

そう時間はかからなかった。

魔法使いの屋敷の前には

連日長蛇の列ができ

多種多様な悩みを打ち明け

魔法使いはそれに応えた。

しかし、魔法が使えらるとはいっても

1人の力には限界があった。

魔法使いは自分の力を

本当に必要とする人々だけが

自分の屋敷にたどり着けるように

門にちよつとした魔法をかけた。

それ以外の人間が通れば、『自らの力で解決しよう』

という意欲が湧くというおまけ付きの。

魔法使いの屋敷へは誰一人として訪ねるものがいなくなった。

私のやってきた事は一体何であったのだからか——

大きな大きな魔法使いの家は何も答えてはくれなかった。



でも……この話に  
どんな意味が  
あるの？

わからない？



自業自得かも  
しれないけど

少し悲しいわね

そうね

ここは幻想卿  
普通の世界  
とは違うわ

妖精がいて  
妖怪がいて  
魔法使いも  
人間もいるわ

この話の魔法使いには  
本当に解決するべき  
問題を抱えた人間は  
来なかったけれど

幻想卿では…

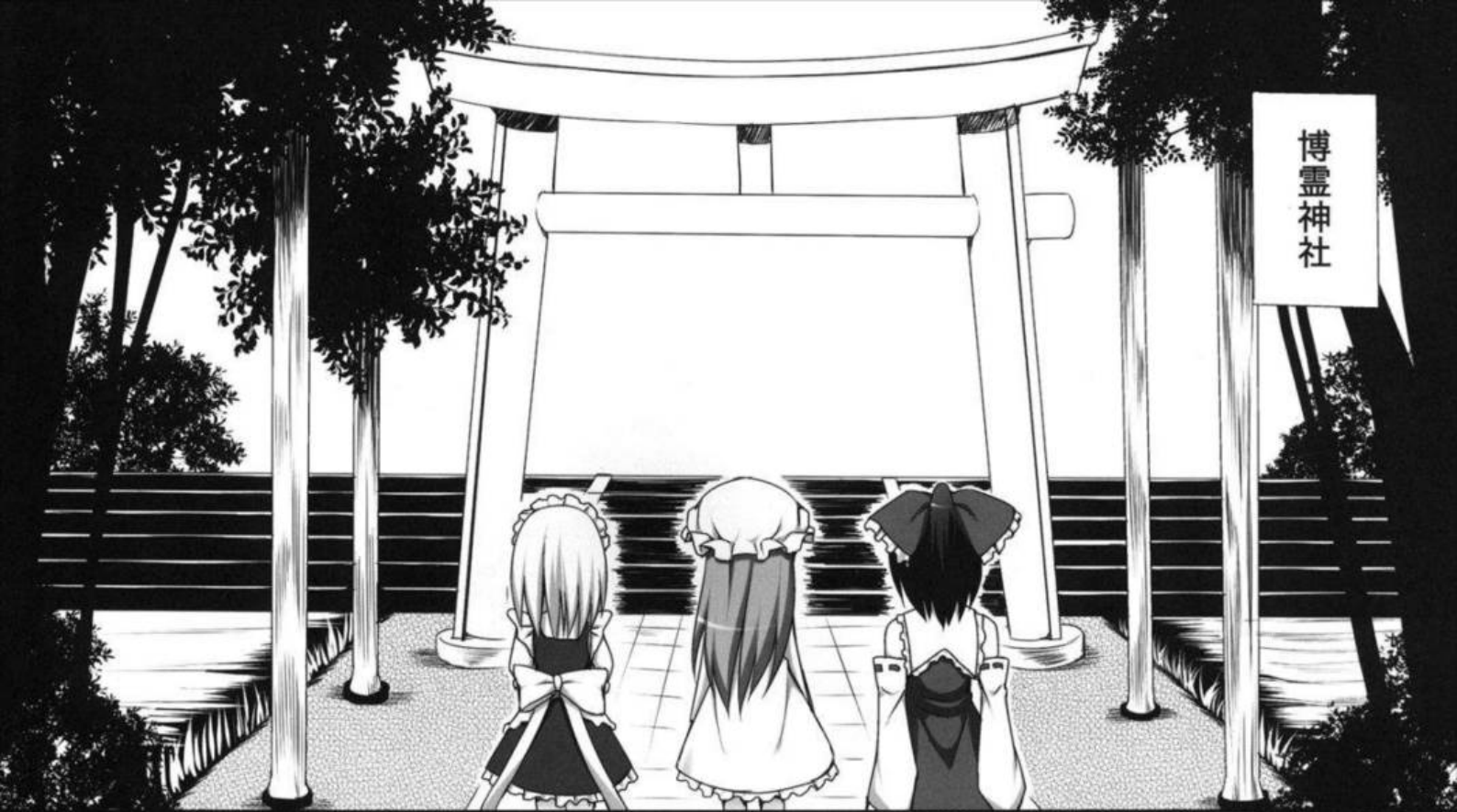
異変!!

そう…

今回の件は  
『魔法』が深く関係している  
可能性が非常に高いわ

ことごとく  
ことごとく…

カッ



やはり入り口に  
細工がして  
あるようね

トクッ



さあ  
手を置いて  
頂戴

え？  
なにになに？

いくわよ

わっわっ

ちよつと待って



いやー  
笑いが  
止まらないな！

散々レーザー  
ぶっぱなしたしな！

賽銭もだいぶ  
もらったし！

これで…もうすぐ  
O UNTENDO64が…

ひんげん…



異変を…

お届けに  
ありがとうございましたよ

ちよ…  
ちよつと待て！  
話せば…

あんた  
こんなことして  
ただで済むと  
思ってるの？

まって…





魔理沙

あなたに決闘を  
申し込むわ

いくわ

賭けるものは…

な…

『体』



十分後

何でだ!?

いってて...

こんなに簡単に  
負けるなんて

私はあなたの事  
何でもしってるもの

だって





わかったよ！  
肉体労働でも  
何でも言いやがれ！

そんなことは  
言わないわ

！ \$ # %  
☹ ☹ ☹ ☹ ☹

な な な

助けろー！！



お…おい！

お…お前ら

諦めなさい  
魔理沙

さつき色々  
観ちやったから  
わたし  
止まらないわ

ズル

な…なんだよそれ  
…あつ

ト  
サッ

あんまり  
濡れてないわ  
…シヨック

あ…  
当たり前だろ！

私はもう

こんなに  
濡れているのに

又  
ル

しほん

サッ

分けてあげる  
魔理沙

こうやって潤滑油が  
あれば敏感になるのよ

やばい……!!

なんだ……これ……!!

うわ……  
ああ!

ひゃん

大丈夫  
怖くなんてない  
でもまだ駄目よ

本当に感度  
いいのね

キュ



ちよつと

待っててね

こつち…

私があなたに  
教えてあげたい  
のは



魔理沙に  
教えてあげたいって

いつも…一人で

おもっていたの

す  
ぬ  
ぬ  
ぬ



どう?  
お〇んちん  
みたいでしょう?

舐めて...

え...え?

.....

あ

びあ

あ

あ

あ

そんなにいいのかわ？

舌の動きが…

なんか

直に舐められてるみたい…

魔理沙に触れられただけで…

変な気分…

はあはあ

そんなにされたら

ホッ  
ホッ







おふい  
フ  
フ

ん  
ん  
ん

ゴ  
ゴ  
ゴ

魔理沙  
もお……

ん  
ん  
ん

フ  
フ  
フ



けほっ

一体何だって  
いうんだ



いまのうちに

忘れよう  
これは夢だ



まっつて



ひっ!?



い...いや

まだ

もう充分

まだ全部  
教えてない

ズ

ズ



お楽しみは  
これからよ

まだまだ

う...

う  
う  
う  
う  
う

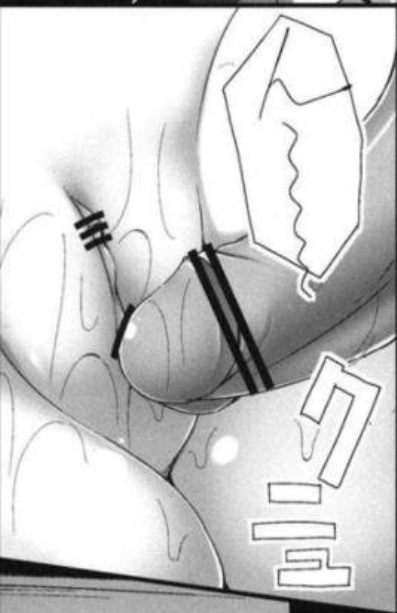


わたし...

まだ...



だ...だめ...



あら

魔理沙  
あなた初めて  
だったの？

言う…なあ

そんなわけ  
な…

痛ッ

嬉しいわ

私のために  
とっておいて  
くれたのね

天

ズッ

ズッ





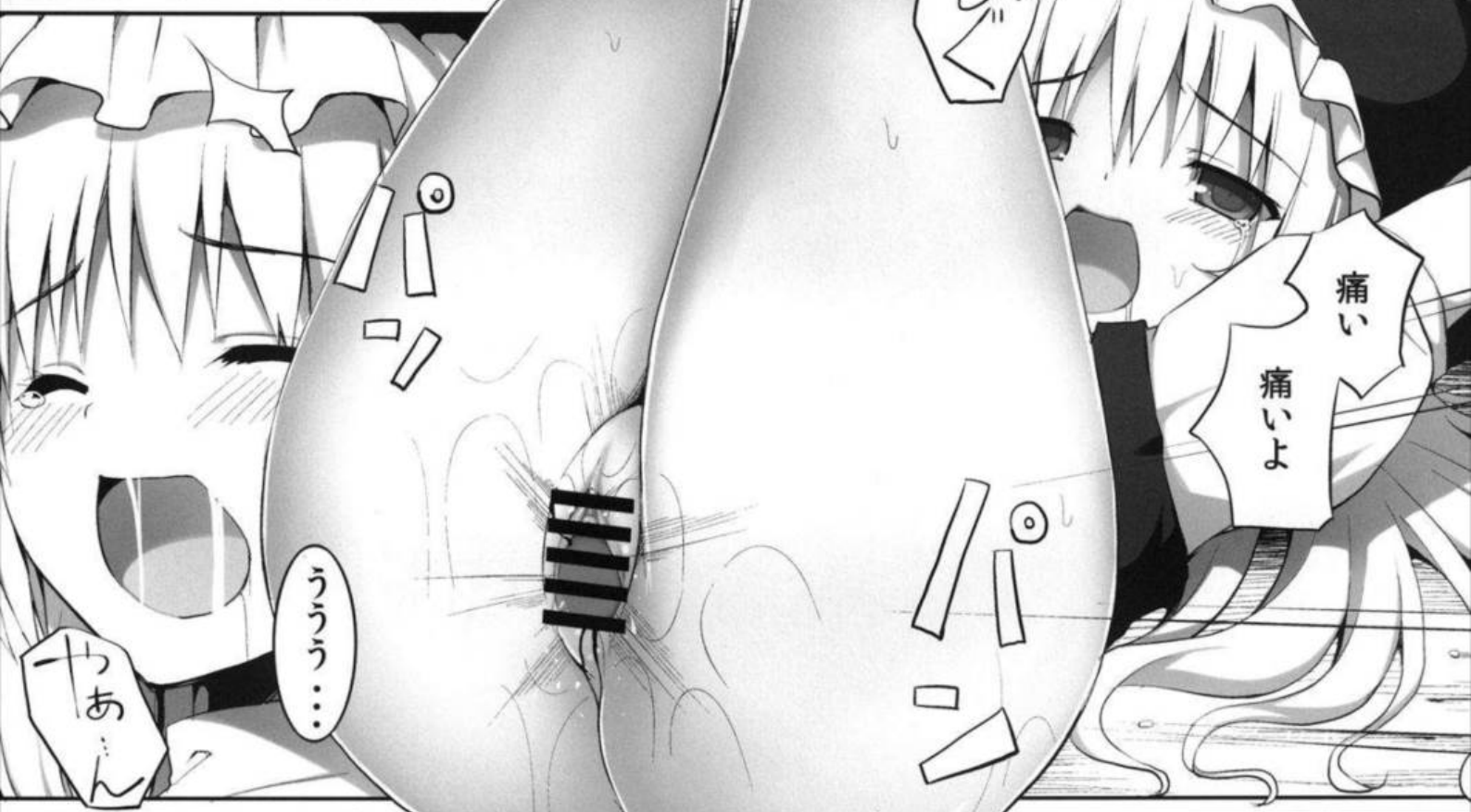
はあ  
はあ

すごくいいの  
腰が止まらないわ

ズ  
ズ  
ズ

た

あ



痛い  
痛いよ

う  
う  
う

う  
あ  
ん



色々  
試してみるわ

そういう問題  
じゃないってば!

ク  
ク  
ク

ん  
ん

痛いってば！

な...んだらう...  
ひも...

痛いけど

イヤな感じ  
じゃなくて









えっ……？

本で読んだわ

二度目のほうが  
気持ちがいいって



うん……？

はあ  
はあ

そういえば



そ……それは

魔理沙も  
気持ちよさそう  
だったじゃない？

いやいや  
言いながら

や~~~~め~~~~ろ~~~~!!



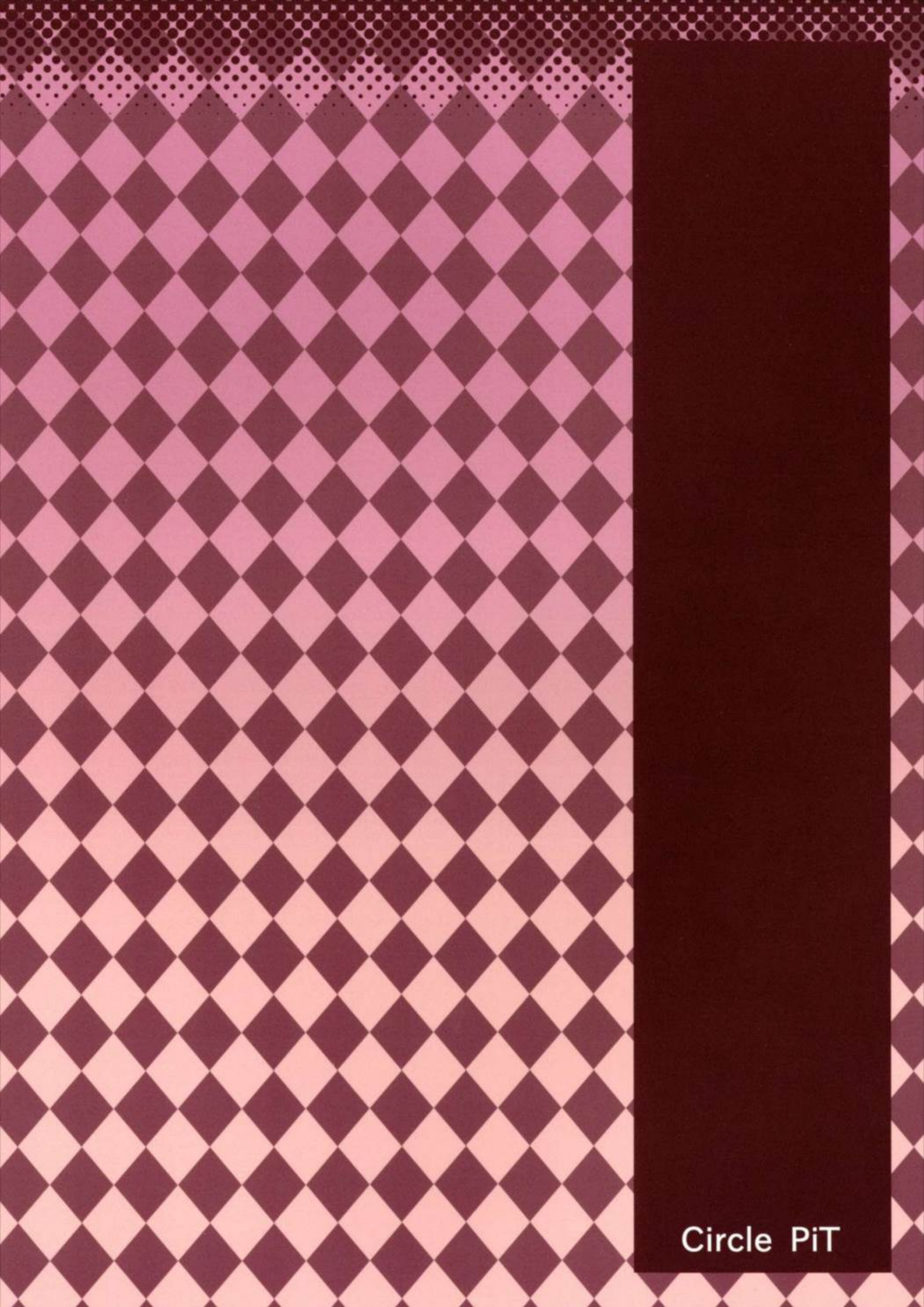
そもそも何しに  
きたんですっけ？

なんだか  
私たち蚊  
帳の外って感じ

★おしまい★

発行サークル：PiT  
著者：なつきしゅり  
Mail：pit@na-s.sakura.ne.jp  
HP：http://na-s.sakura.ne.jp  
印刷所：ねこのしっぽ様





Circle PiT